

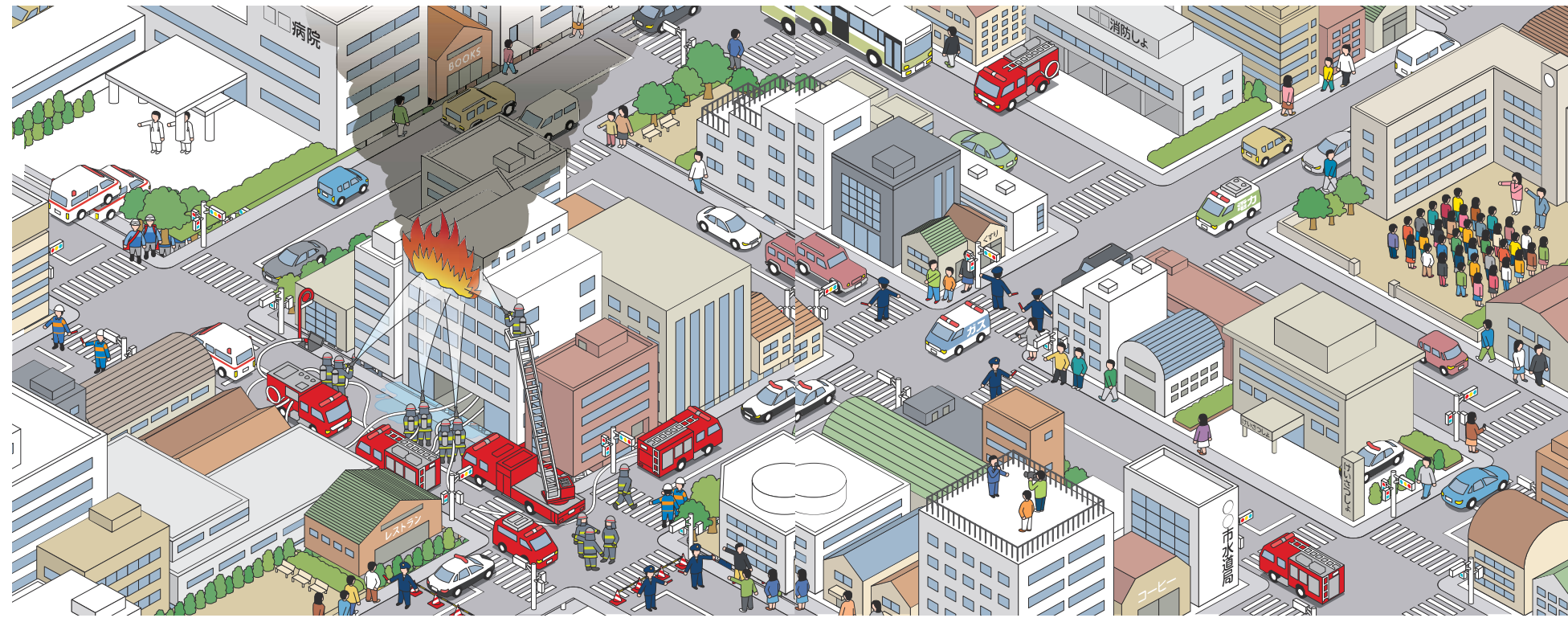
3

くらしを守る

1 火事からくらしを守る

めあて

火事が起きると、どのような人がどのようなことをするのでしょうか。



▲火事が起きたときの様子

●火事が起きたら

はやとさんたちは、火事の様子についてイラストを見ながら、気づいたことを話し合いました。



「消防士がホースを使って火を消しているよ。」



「相談したり、道路から水をかけたりしている消防士もいるね。」



「救急車がけがをした人を運んでいるよ。」



「けいさつの人がたくさんいるよ。何をしているのかな。」

はやとさんたちは、火事の現場では消防士のほかに、いろいろな人たちが協力していることに気づきました。

まなびのポイント

イラストを見て、どんな人がはたらいているか話し合ってみよう。

それぞれの人が、どんな仕事をしているか考えてみよう。

ことば

協力 火事の際は、消防しよだけでなく、けいさつしよ、役所、病院、電力会社、消防団などの関係するところが、はやく、安全に消火や救助ができるように協力します。

見方・考え方

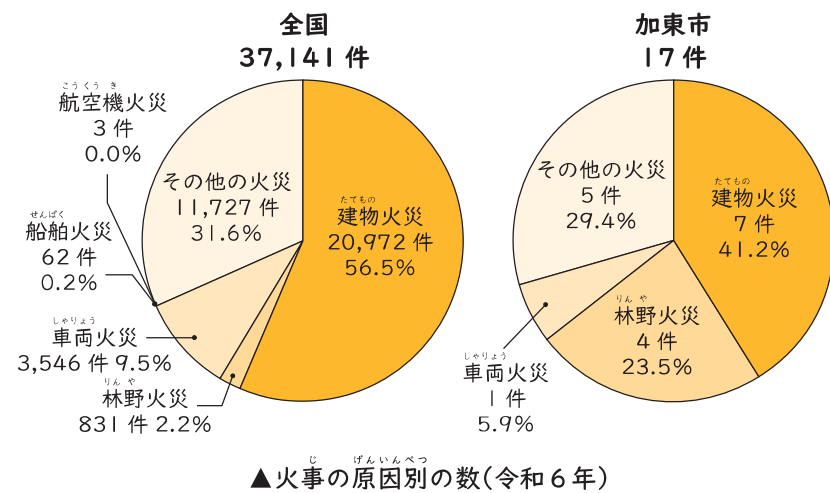
学校の近くの消防しよは、どこにあるのかな。

めあて

表や写真を見て、気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。

火災 17件
救急 2,268件
救助 44件

▲加東市の災害発生数(令和6年)



▲火事の原因別の数(令和6年)

●火事をふせぐ

全国で1日におよそ100件の火災が発生しています。加東市では、1年間におよそ20件の火事が起きています。そして、大切な人の命やざいさんがうしなわれるなど、多くのひがいが出ています。

はやとさんたちは、火事が起きたときのさまざまな取り組みについて、消防しよに見学に行って、調べることにしました。

まなびのポイント

表や写真を見て、気づいたことを話し合おう。

学習問題をつくり、消防しよで調べたいことを話し合おう。



▲救助訓練



▲救急自動車



▲まちのホースかくのう箱



▲消防自動車

しら調べること

- 消防士の仕事
- 119番のしくみ
- 消防のためのしせつやせつび
- 消防しよや地いきの取り組み

調べ方

- 消防しよに行って、見学したり話を聞いたりする。
- 学校のまわりを歩いて調べる。
- 消防しよでしりょうをいただく。図書館の本で調べる。
- 地いきの人に聞く。ホームページで調べる。

まとめ方

- 火事からわたしたちのくらしを守る人たちのはたらきについて関係図にまとめる。

学習問題

火事が起きたときや火事をふせぐために、だれが、どのようなはたらきをしているのでしょうか。

めあて

消防しよの人たちは、どのような取り組みをしているのでしょうか。

●消防しよへ行こう

はやとさんたちは、加東消防しよへ見学に行きました。



▲加東消防しよ



▲消火の訓練



▲消防しよの人たち



▲器具の点検

まなびのポイント

消防しよを見学して、消防しよの人たちに知りたいことを聞いてみよう。

見学してわかったことをノートやカードに整理しよう。

消防しよではたらく人の話



119番を受けたときに、できるだけはやく火事の現場にかけつけ、すばやく消火できるよう、消防士はふだんから訓練をしています。防火服、マスク、ボンベなど、火事の現場と同じそびをして、はしごをのぼったり、走ってホースをのばしたりして、真けんに取り組んでいます。自分たちが使う器具を点検することも大切です。消火活動はきけんなこともありますが、みなさんの命やざいさんを守る仕事にほこりをもっています。

防火服や器具について

- ・じょうぶでやぶれにくく、1200度の火に約17秒間たえられる防火服。
- ・防火服とマスクでやく10kg、そびも入れると20kgになる。
- ・ヘルメットは、耳や頭がすべてかくれるようになっている。



▲防火服を着た消防士

見方・考え方

消防しよの人たちは、火事にそなえて、どのようなじゆんびをしているのかな。

きんむ時間について

- ・夜に火事が起きてもすぐかけつけられるよう、当番の日は24時間はたらく。
- ・毎日とはたらくわけではなく、「非番」という日やお休みの日がある。

	日	月	火	水	木	金	土
Aさん	休み	休み	当番	非番	当番	非番	休み
Bさん	非番	当番	非番	当番	非番	休み	休み
Cさん	当番	非番	休み	休み	当番	非番	当番
Dさん	非番	休み	休み	当番	非番	当番	非番

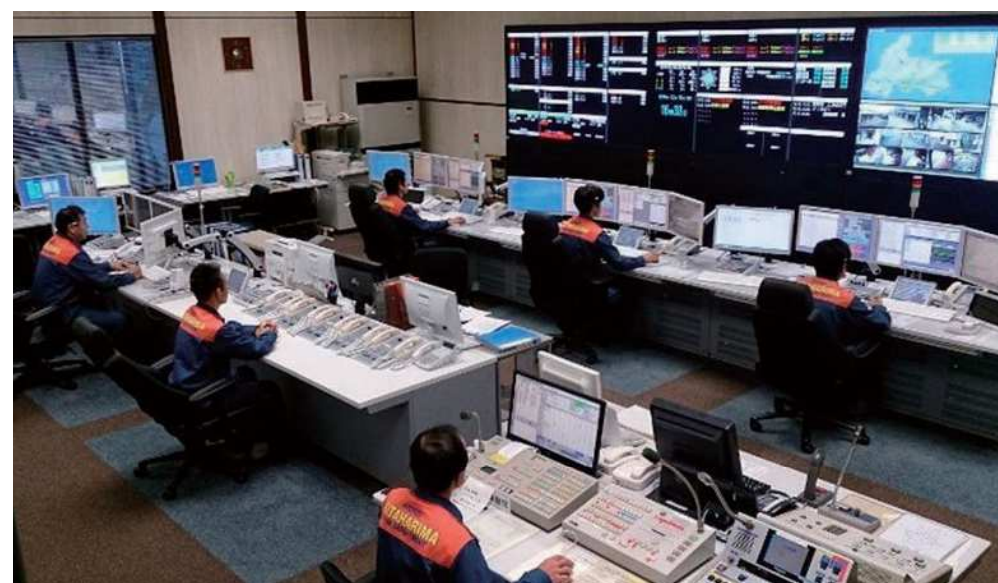
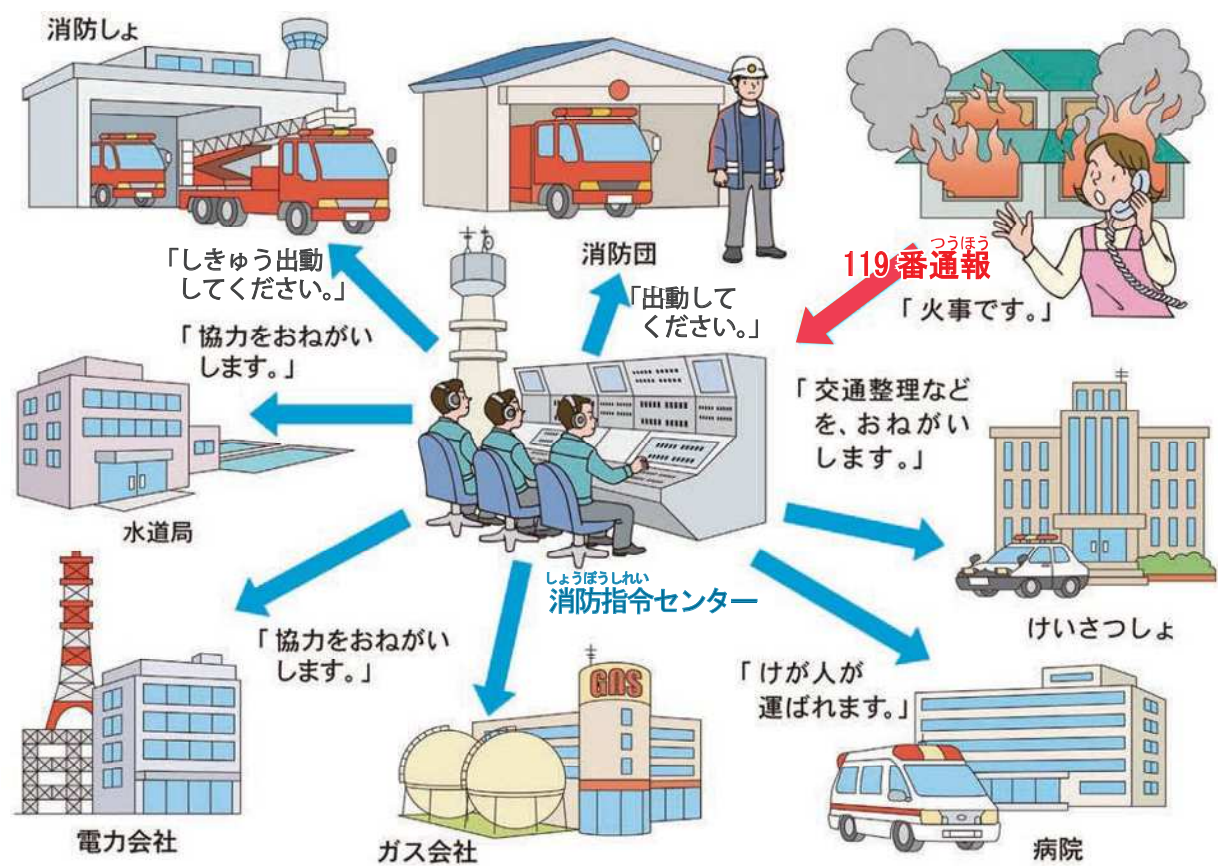
▲消防士のきんむ時間表

消防自動車について

- ・消火や救助のための器具がしまわれている。
- ・火事の場所や大きさによって、出動する消防自動車がちがう。



▲さまざまな器具と消防自動車



▲消防指令センター



「消防指令センターの人は、どこで火事が起きたのかを正しく聞いているよ。」



「火事が起きたとき、ガス会社や電力会社、水道局など、さまざまな人が活やくしているんだね。」

消防指令センターではたらく人の話



消防や救急の仕事は、はやく現場に行くことが大切です。大きな火事ときには、ほかの市や町の消防しょにもおうえんをたのんで、みんなで協力して消火するようにしています。

まなびのポイント

119番の電話が、まずどこにつながるかを調べよう。

消防指令センターから、どこにどのようなれんらくがいくかを調べよう。

めあて

119番に電話をかけると、どこにつながり、どこへれんらくがいくのでしょうか。



▲北はりま消防組合管内

●消防指令センターのはたらき

北はりま消防組合管内(加東市・加西市・西脇市・多可町)で火事が起きたことを知らせる119番の電話は、消防指令センター(加東市下滝野)につながります。

消防指令センターでは、れんらくを受けた火事の場所に近い消防しょに出動指令を出します。そして、指令を受けた消防しょはただちに出勤して火事の現場にかけつけます。

ことば

消防指令センター 火事なのか救急なのか、火事の場所などをたしかめて、消防しょに出動の指令を出し、ほかの関係するところにもれんらくを入れます。

見方・考え方

火事が起きたとき、どのような人々が協力し合っているのかな。



▲防火水そうをしめすかんばん



▲防火水そう



▲消防団の詰め所



▲防災広場



▲スーパーの立ち入りけんさ

めあて

わたしたちの周りには、どのような消防しせつがあるのでしょうか。



▲ホースかくのう箱



▲まちの消火せん

●まちの消防しせつをさがそう

学校やまちには、防火水そう、消火せん、消火きなどの消防しせつがあります。学校のプールは、消火のために水を使うことのできる、防火水そうにもなっています。

消防しよの人たちは、スーパーやホテルなど、たくさんの方が利用するたて物やきけんなものを取りあつかうしせつが、安全に使用できるようにけんさをしています。

まなびのポイント

学校やまちの消防しせつをさがして、地図に表してみよう。

地図を見て、わかったことや考えたことを、話し合おう。

学校にある消防しせつ



▲消火せん



▲消火き



▲火災受信機



▲ひなんぐちのゆうどうとう



▲ひなん場所のかんばん



▲住宅用火災けいほうき

消防しよではたらく人の話



消火せんやひなん場所などは、地いきにかならずつくるよう決められています。また、全ての住たくに火災けいほうきを取りつけることも決められています。

ことば

消防しせつ 消火活動に使うものや、火事から人を守るためにひつようなものです。

見方・考え方

まちの消防しせつは、どのように広がっているのかな。



▲操法大会の練習



▲操法大会



▲講習会



▲防火のよびかけ



▲消防しょとの合同訓練



▲夜の見回りの出発式

めあて

火事が起きたときや火事をふせぐために、地いきではどのような取り組みが行われているのでしょうか。

●地いきの消防団の取り組み

はやとさんたちは、消防団の訓練を見学に行きました。

地いきには、消防しょのほかに、消防団がおかれています。地いきに住む人たちがきぼうして、消防団員となります。

消防団の人たちは、消防しょの人とちがって、ふだんはそれぞれべつの仕事をしていません。火事が起きると、消防しょの人と協力して消火や救助にあたります。

火事がないときでも、消防訓練をしたり、器具の点検をしたりしています。

また、台風や地震などが起きたときも出動し、消防しょと協力して活動します。



「消防団は、地いきの人たちが集まって活動しているんだね。」

消防団の植田さんの話



消防団の人は、火を消すなどの危険な活動を行うので、けがや事故にあわないように、講習会や訓練をたくさんしています。また、訓練の成果をきそう「操法大会」という大会があり、優勝をめざしてたくさん練習するところもあります。

私たちは、「自分たちのまちを自分たちで守りたい」という思いで消防団の活動に取り組んでいます。まちの安全を守るために活動をしているので、とてもやりがいを感じます。

ことば

消防団 地いきの人たちがつくる組織で、火事などのさいがいのときに消防しょと協力します。

見方・考え方

わたしたちがくらす地いきにも、同じような取り組みがあるのかな。

2 事故や事件から くらしを守る

めあて

事故や事件のイラストやグラフなどを見て、気づいたことを話し合い、学習問題をつくろう。

まなびのポイント

身のまわりで、どのような場所があぶないかを考えてみよう。

事故や事件の数のグラフを見て、気づいたことを出し合おう。

見方・考え方

学校の近くの交番は、どこにあるのかな。



▲交通事故の様子

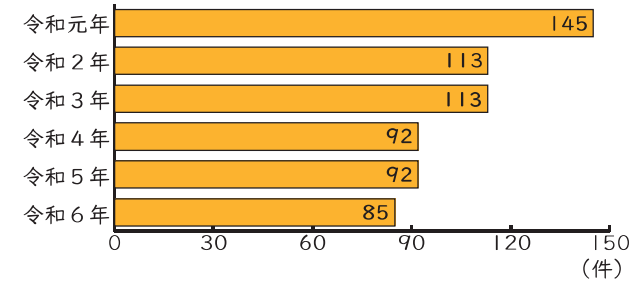
●おそろしい交通事故や事件

りささんたちは、交通事故や事件の様子やグラフを見ながら、気づいたことを話し合いました。

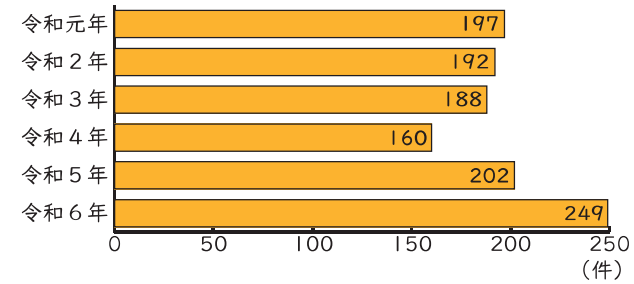
「事故のげん場では、いろいろな人たちが協力しているね。」

「けいさつの方は、事故が起きたとき、どうしてすぐにげん場にかけてることができるのかな。」

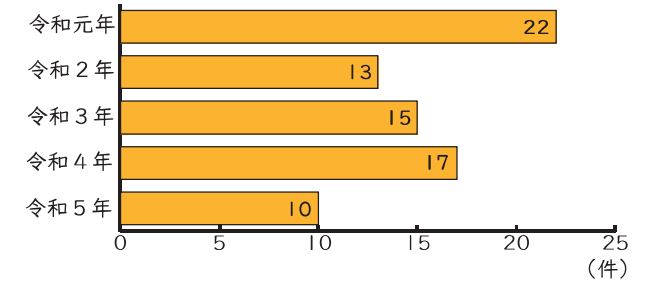
「加東市の事故のけん数がへっているけど、へらすための取り組みはあるのかな。」



▲加東市の人身事故の数



▲加東市の犯罪の数



▲加東市の自転車に関係する人身事故

加東市では、国道175号や国道372号を通る車の数が多いため、交通事故が多く起きています。交差点や住たく地でも、自動車や自転車による事故もあります。

また、近年では、ネットトラブルや電話によるさぎなどの事件もふえています。

りささんたちは、まちの安全を守るための、さまざまな人の取り組みについて調べることになりました。

学習問題

事故や事件からわたしたちの安全を守るために、だれが、どのようなはたらきをしているのでしょうか。

しらべること

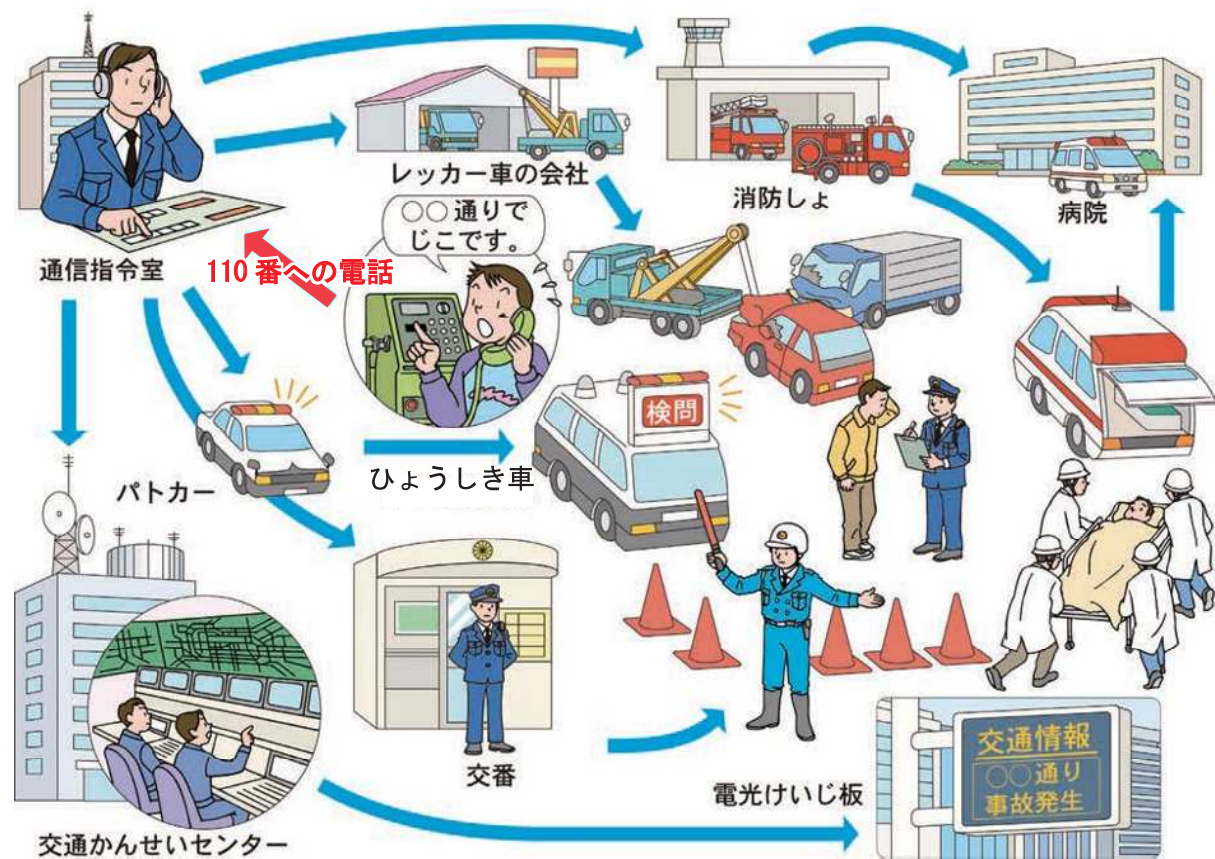
- ・けいさつの方の仕事
- ・交番のはたらき
- ・地いきの方の活動
- ・学校や市の取り組み

調べ方

- ・けいさつしょや交番で話を聞く。
- ・地いきの方に話を聞く。
- ・市の広ほうしやインターネットで調べる。

まとめ方

- ・安全を守るためのはたらきをまとめる。



めあて

事故や事件が起きたとき、さまざまな人がすぐにかけることができるのは、なぜでしょうか。

【けいさつへ通ぼう】

- ・110番にかける
- ・事故の様子
- ・場所はどこか
- ・自分の名前や電話番号

●事故が起きたら

交通事故が起きたら、110番に電話をします。電話は、兵庫県けいさつ本部の通信指令室につながります。通信指令室から、すぐにげん場近くのけいさつしょや、パトロールカーなどにれんらくします。また、けがをした人がいるときには、消防しょにれんらくをします。すると、救急車が出動してきます。火事と同じように、いろいろな人たちが協力して事故をしよります。

事故の現場ではたらくけいさつかん



- ①なぜ、事故が起きてしまったかを調べる。
- ②交通整理をして、道路の安全をかくほする。



「事故が起きたら、はやく通ぼうすることが大切だね。」



「通ぼうすると、いろいろなところにれんらくがいくことを知ったよ。」

加東けいさつしょの人の話



通ぼうを受けると、すぐにげん場に向かいます。しかし、みなさんが安全に楽しい毎日をすごすことが、わたしたちの願いです。遊ぶときは、交通事故に合わないように車に気をつけること、ふしんな人を見た場合は大きな声を出して知らせることを守ってください。わたしは「人の役に立つ仕事がしたい」と思い、けいさつかんになりました。けいさつしょには、いろいろな人が、こまり事の相談や助けをもとめて来られます。その人たちのために、けいさつかんは勉強や訓練をがんばっています。まちの安全を守るため、これからもがんばります。

まなびのポイント

事故のしよりで、だれが協力し合っているのか調べてみよう。

けいさつの仕事は、事故のしよりのほかに何があるか予想してみよう。

ことば

通ぼう 110番の電話は、けいさつ本部の通信指令室につながります。事故の様子や場所などを、落ち着いて、正しく伝えることが大切です。

見方・考え方

けいさつは、どのような人たちと協力し合っているのかな。



▲加東市内のけいさつしょや交番
ちゅうざい所



▲社交番



▲交通いはんの取りしまり

めあて

けいさつの人たちは、みんなの安全を守るため、どのような取り組みをしているのでしょうか。

●けいさつの仕事

りささんたちは、けいさつの仕事について調べました。

けいさつの人たちは、交通ルールを守らない人の取りしまり、事故や事件をふせぐためのパトロールや訓練、よびかけなどを行っています。

市内には、1か所のけいさつしょと2か所の交番、7か所のちゅうざい所があり、道案内や落とし物など、こまっている人の相談にのっています。

また、お祭りや花火大会など、たくさんの人が集まる場所ではパトロールや交通整理をする仕事もしています。そして、さいがい時は、救助活動を行うこともあり、地いきの人々のために、はたらいています。

まなびのポイント

けいさつの仕事を調べてメモに書いてみよう。

メモを使ってけいさつの仕事について話し合ってみよう。



▲祭りのけいび



▲訓練のようす



▲さいがいの救助活動



▲学校での自転車教室



▲学校での交通安全教室



▲地いきのパトロール

交番の人の話



わたしたちは、地いきのみなさんにいちばん近い存在です。事故や事件が起きたときには、わたしたちがはじめにかけつけます。

また、地いきのみなさんが安心してすごすことができるように、登下校の時間だけでなく、こまめにパトロールをしています。これからも、事故やけがのないように、交通ルールを守って、安全に生活をしてください。



「わたしたちの学校にも来てくださることがあるね。」



「わたしたちの安全を守るために、いろいろな仕事をしてくれているんだね。」

ことば

法やきまり たとえば、交通に関する法やきまりは、安心して毎日を送るためにひつようなものの一つです。より安全な生活のために、法やきまりをみんなで考え、大切にしていくなつとがかかせません。

見方・考え方

けいさつかんのほかに、だれがまちの安全を守っているのかな。



▲こども110番の家ののぼり



▲地いきの人の見守り活動

めあて

地いきの人たちは、まちの安全を守るためにどのような活動をしているのでしょうか。

まなびのポイント

こども110番の役わりについて考えてみよう。

まちの安全を守るしくみについて話し合ってみよう。

●安全なまちづくり

加東市では、地いきで子どもたちを守るために、「きけんを感じたときに安心して助けをもとめることができる場所」として、協力してくれる人の家や店に「こども110番の家」ののぼりを立ててるところもあります。

また、登下校の時間には、地いきの方が、通学路に立ち、登下校する子どもたちの安全を守っています。



「学校の近くの家に、こども110番の家ののぼりが立っているね。」



「まちの安全を守るために、いろいろな人が協力しているんだね。」

加東市役所防災課宇仁菅さんの話



加東市では、地いきの人や学校と協力しながら、毎年通学路の点検を行っています。きけんな所には、かん板や防犯カメラをつけて、安心して通学できるようにしています。また、班長旗もこう入し、学校に配っています。



▲交通ひょうしき

学校の近くに住んでいる人の話



わたしの家には、こども110番の家ののぼりを立てています。きけんを感じた時にはいつでも助けをもとめてください。子どもたちが安全に生活できることを願っています。

見守り隊の人の話



登下校の時に、車の通りが多い交差点で、子どもたちが安全に横だん歩道をわたれるように見守っています。子どもたちが、事故にあうことなく、通学できることをねがっています。

ことば

こども110番の家いざというときに、子どもたちが助けをもとめられるようにしている家や店などがあります。

けいさつと協力して、地いきの人たちも、より安全なまちづくりにさんかしています。

見方・考え方

なぜ、さまざまところで地いきの人たちが活動しているのかな。



▲地いきの見守り隊



▲まちの安全かいぎ



▲交番からのお知らせ

めあて

地いきの人たちは、安全なまちづくりのために、どのような取り組みをしているのでしょうか。



▲保護者や地域の見守り活動

●地いきでの取り組み

りささんたちは、安全なまちづくりのために、地いきの人が協力していることを調べました。

「地いきの見守り隊の方がパトロールをしているのを見たことがあります。」

「うちの人がPTAやPTCAの見守り活動をしています。」

地いきの人の話



学校やPTA、PTCA、けいさつ、市役所が協力して安全なまちづくりを進めています。わたしたちの地域では、子どもたちが安全に生活できるように見守り活動やあいさつ運動をしています。

加東市では、地いきの人たちが町内を歩いて、パトロールをしています。

また、まちの安全かいぎを年間で4回行っています。けいさつや市役所と協力して、市内のあぶない場所などを話し合ったり、防犯パトロールを行ったりして、事故や事件をふせぐ努力をしています。

ことば

PTA、PTCA 保護者と学校、地いきの人々が子どもたちのために協力をする組織のことです。

見方・考え方

自分のたちの地いきでも、同じように取り組んでいることはあるかな。

4

市のうつりかわり

市の様子と人々の くらしのうつりかわり

めあて

加東市の様子は、どのよう
にかわってきたのでしょうか。



▲JR加古川線



▲加古川流域滝野歴史民俗資料館

●加古川流域滝野歴史民俗資料館の見学

けんたさんたちは、市の様子がどのよう
にかわってきたのか調べるために、加古川流域
滝野歴史民俗資料館へ見学に行きました。

「昔の道具が展示されているね。ど
のような時に使ったのかな。」

「加古川舟運についての展示がある
ね。舟を使って何を運んでいたのか
な。」

「鉄道は、いつできたのかな。昔の
鉄道と今のJR加古川線はどのよう
なちがいがああるのかな。」

けんたさんたちは、学校にある昔の道具や
長い間地域の人々に大切にされているしせつ
についても調べてみることにしました。



▲加古川流域滝野歴史民俗資料館内の様子

加古川流域滝野歴史民俗資料館の人の話



この資料館は、加古川と地域の歴史
について多くの人に知ってもらうこと
を目的に1980（昭和55）年に開館し
ました。

①米作りの1年、②遺跡からわかる加東の歴史、
③加古川舟運の歴史、という3つのコーナーがあ
り、加東市の歴史や文化を知ることができます。

近く有加東市地域交流センターでは、パネル展
示により加東市の歴史や文化遺産について紹介し
ています。

加東市には、ほかにも三草藩武家屋敷旧
尾崎家など、昔の人のくらしを知ることので
きるしせつがあります。



▲加古川流域滝野歴史民俗資料館
周辺の地図



▲加東市地域交流センター常設
展示

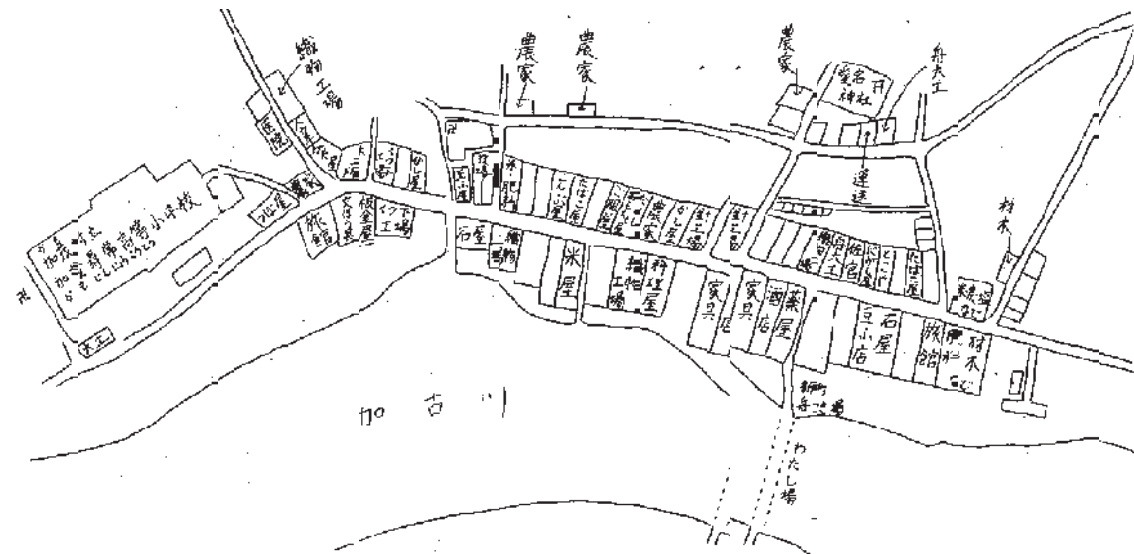
まなびのポイント

見学をして気づいたこ
とを話し合おう。

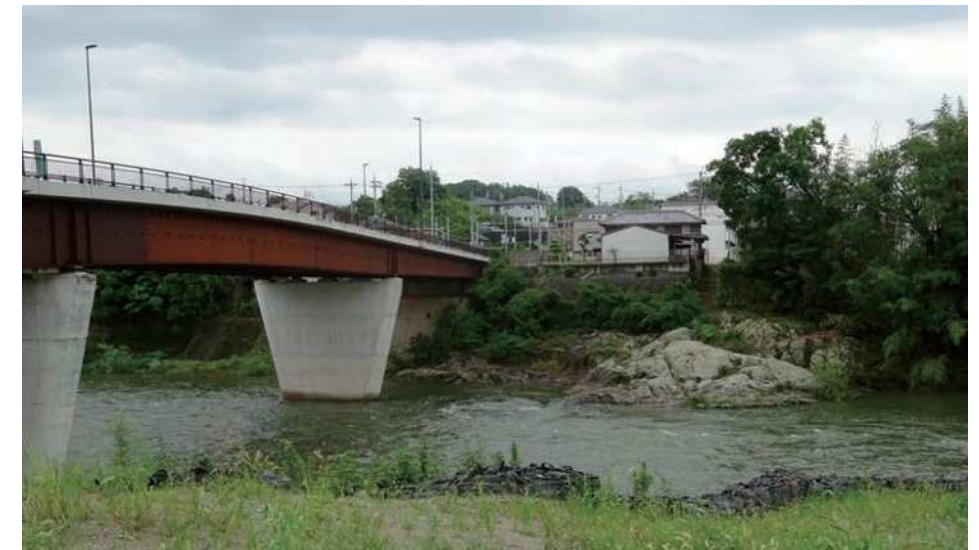
昔の市の様子について
身近な人に話を聞こう。



▲昔の加古川の様子(上滝野地区側から見える対岸の新町地区の舟着場)



▲大正時代の新町地区のまちなみ(新町研修センターのパネルから)



▲今の加古川の様子(上滝野地区側から見える対岸の新町地区の旧舟着場)

めあて

市の様子のおつりかわりについて疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくりましょう。

●かわってきたわたしたちの市

つぎに、けんたさんたちは、今の加古川の写真と、昔の写真、大正時代の新町地区のまちなみの様子を合わせて気づいたことを話し合いました。



「写真をくらべると、昔は舟を使っているけど、今は橋がかかっていて自動車を使っていることが分かりました。」



「大正時代の新町地区には石屋や材木屋、舟問屋などいろいろなお店があるね。」

けんたさんたちは、市がどのようにかわってきたのか、調べてみることにしました。

まなびのポイント

市の様子のおつりかわりについてぎもん思ったことを話し合おう。

学習問題をつくり、学習計画を立てよう。

しらべること

- ・道路や鉄道のつりかわり
- ・土地の使われ方のつりかわり
- ・住んでいる人の数のつりかわり
- ・学校などの公共施設のつりかわり
- ・くらしの道具のつりかわり

調べ方

- ・昔のことにくわしい人に聞く。
- ・加古川流域滝野歴史民俗資料館に見学に行く。
- ・市役所の人に聞き取りに行く。
- ・ホームページで調べる。
- ・学校にある昔の道具について調べる。
- ・市の図書館や学校の図書室で調べる。

まとめ方

- ・市の様子と人々のくらしのつりかわりを年表にまとめる。

学習問題

わたしたちの市は、いつごろ、どのようにかわってきたのでしょうか。

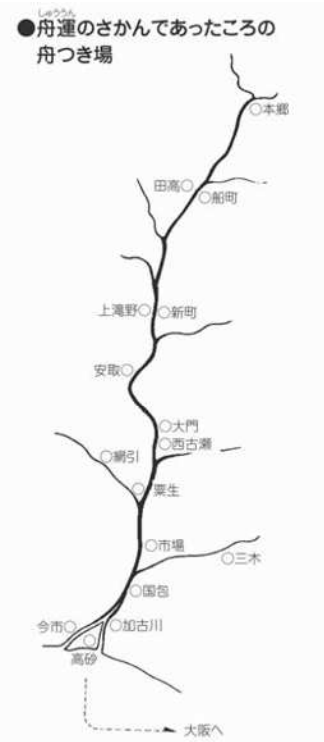
見方・考え方

60年前とくらべて、どのようところがかわってきたのかな。

交通	420年から100年ほど前
できごと	<ul style="list-style-type: none"> ●加古川舟運が始まった(滝野～高砂) (1594年) ●加古川舟運が完成した(氷上～高砂) (1604年) ●閼竜灘に掘割水路が開通した(1873年)

交通	110年から100年ほど前
できごと	<ul style="list-style-type: none"> ●播州鉄道が開通した (1913年) ●播丹鉄道の野村駅～谷川駅間が開通した(1924年)

交通	50年ほど前～今
できごと	<ul style="list-style-type: none"> ●中国自動車道が開通した(1974年) ●国鉄加古川線で貨物を運ばなくなった(1974年) ●JR加古川線が電化された(2004年) ●加東バスターミナルができた(2022年)



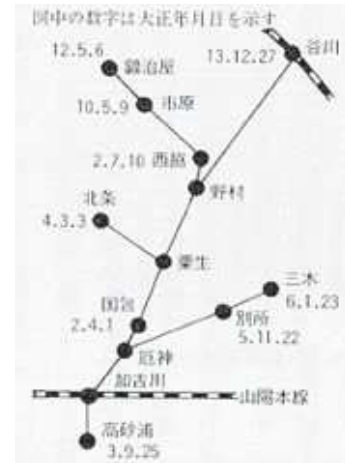
▲掘割水路



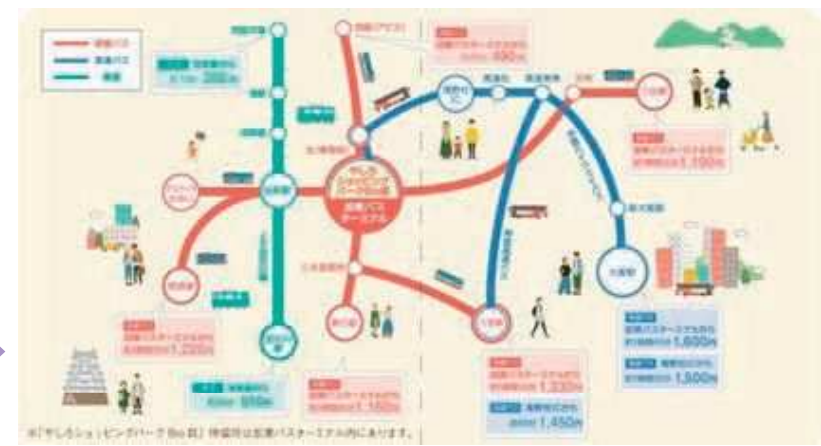
▲播丹鉄道
(出典:『滝野町史 本文編』)



▲高瀬舟(出典:『大門誌』、写真:蓬萊家蔵)



▲播丹鉄道
(出典:『滝野町史 本文編』)



▲加東市の公共交通
(出典:『令和7年4月発行 加東市公共交通ガイドブック』)

鉄道は、播州鉄道→播丹鉄道→国鉄加古川線→JR加古川線と変わってきました。

▲加古川舟運がさかんであったころの舟着場

●交通のうつりかわり



「今から430年ほど前に加古川舟運が始まったんだね。」



「今から110年ほど前に播州鉄道が開通したんだね。」

けんたさんたちは、舟運や鉄道、高速道路ができたことで、人々の生活がどのように変わったのか話し合いました。

めあて
市の交通は、どのように変わってきたのでしょうか。

見方・考え方
鉄道や道路は、どのように広がっていったのかな。

加古川流域滝野歴史民俗資料館の人の話

高瀬舟は、長さ約11メートル、はば約2メートルの箱形の舟です。「船頭(オヤジ)」、「ともり」、「中のり」の3人が舟をあやつりました。滝野を午前2時～4時に出発し、午前8時に高砂に到着していました。滝野から高砂までの38キロメートルを約4時間でぐだりました。舟運ができるのは、1年のうち9か月間だけでした。



▲加東バスターミナル

まなびのポイント
大きな道路や鉄道ができて、市はどのように変わったのか考えてみよう。

土地の使われ方	100年ほど前
わかったこと	●針葉樹林が多かった
気づいたこと	●たくさんのため池があった ●女学校があった

土地の使われ方	40年ほど前
わかったこと	●住たくがふえた
気づいたこと	●ため池が減った ●道路がふえた

土地の使われ方	今
わかったこと	●住たくが広がっている
気づいたこと	●新しい道路(国道372号)ができています



▲100年ほど前



▲40年ほど前



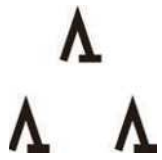
▲今



▲兵庫県立嬉野学徒錬成所
(出典：県立嬉野台生涯教育センター所蔵資料)

めあて

市の土地の使われ方は、どのようにかわってきたのでしょうか。



▲針葉樹林の地図記号

見方・考え方

市の土地の使われ方は、何がふえて、何がへってきたのかな。

●土地の使われ方のうつりかわり

けんたさんたちは、今の市役所周辺の地図と昔の地図をくらべて、気づいたことを話し合いました。



「100年ほど前は、針葉樹林がほとんどだね。」



「今は、住たくやお店がとても多くなっているよ。」

加東みらいこども園がある場所には、かつて兵庫県の学生をきたえるため兵庫県立嬉野学徒錬成所がありました。学生(今の中学生・高校生)は1週間、くんれんなどにはげみしました。今の社高等学校や兵庫教育大学附属小学校のあたりにかっそうろがありました。

- 1943年：兵庫県立嬉野学徒錬成所が開設
- 1946年：兵庫県立嬉野公民研修所が開設
- 2019年：加東みらいこども園が開園

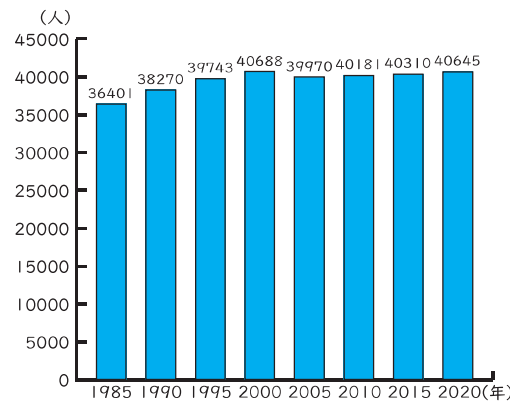


▲加東みらいこども園

まなびのポイント

昔と今の土地の使われ方について地図でくらべよう。

人口	130年ほど前	70年ほど前	今
できごと	●社村、福田村、上福田村、米田村、鴨川村、滝野村、加茂村、上東条村、中東条村ができた(1889年)	●社町、滝野町、東条町ができた(1958年)	●加東市ができた(2006年)



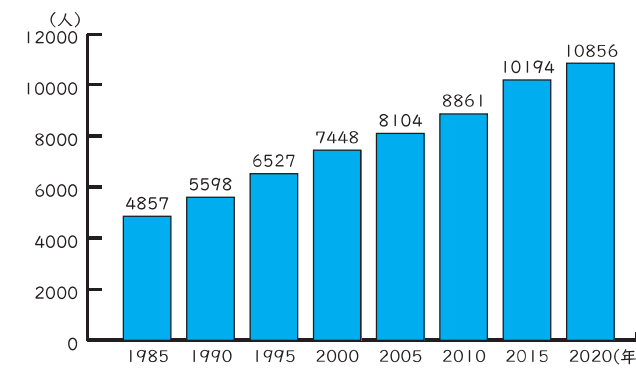
▲加東市の人口のうっぴりかわり
(出典:「加東市人口ビジョン」)



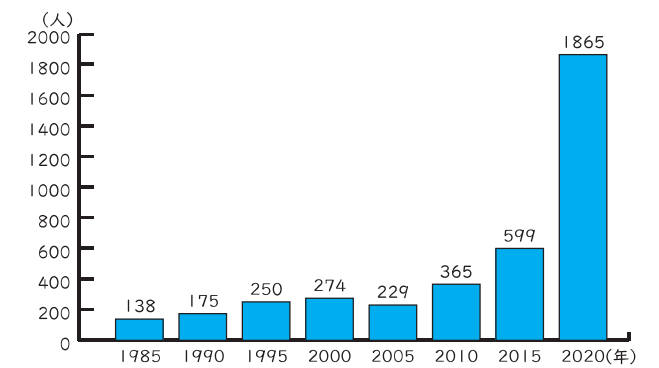
▲130年ほど前の加東郡の様子
(出典:『社町史第二巻』)



▲70年から20年ほど前の加東郡の様子



▲65才以上の人の数



▲市に住む外国の人の数



「お年よりの数がふえているよ。お年よりにやさしいまちにするためにどのような取り組みが進められているのかな。」



「まちで外国の人をよく見かけるよ。住む人がふえているのかな。」

けんたさんたちは、2007年にできた加東市国際交流協会こくさいこうりゅうきょうかいで話を聞きました。

人口

市や県、国など、その地いきに住んでいる人の数のことです。

見方・考え方

高れい者や外国の人にやさしいまちにするためにどのような取り組みが行われているのかな。

めあて

市の人の数は、どのようにかわってきたのでしょうか。

まなびのポイント

高しや者や外国の人にとって、今の加東市に住みやすいまちかを考えてみよう。

高れい者や外国の人にやさしいまちにするための取り組みを調べてみよう。

●人口のうっぴりかわり

けんたさんたちは、市の人口のグラフや昔の加東郡の様子を見て、話し合いました。



「2000年から2020年までは、ほとんど人口が変わっていないね。」



「加東市は2006年に滝野町と社町、東条町がたきのちょう やしろいっしょになり、たん生したんだね。」

けんたさんたちは、高れい者や外国の人の人口の変化についても、調べてみることにしました。

加東市国際交流協会こくさいこうりゅうきょうかいの人の話



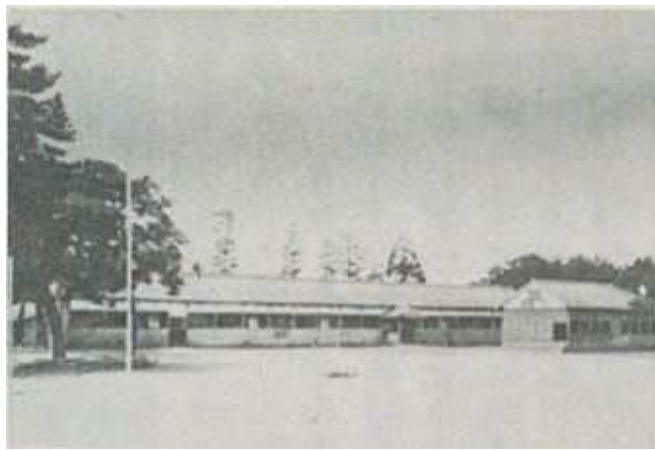
加東市国際交流協会では、いろいろな取り組みを行っています。たとえば、①兵庫教育大学の留学生と地域の人をつなぐフレンドシップファミリーの取り組み、②外国の人への日本語教室や居場所づくり、③地域の人と外国の人が交流する場づくり、④加東市の小学生が世界のことを学ぶ、加東キッズインターナショナルワークショップを行っています。

加東市にはいろいろな国・地域から来た人が生活しています。加東市で生活する人々がいっしょに生きていくためには、それぞれの国の習かんをみとめ合うことが大切です。

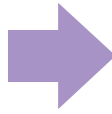
公共施設	100年から50年ほど前
わかったこと 気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> ●加東郡公会堂(のちの明治館)ができた(1912年) ●小学校が国民学校になった(1941年)

50年から20年ほど前
<ul style="list-style-type: none"> ●給食センターができた(1970年) ●コスミックホールができた(1990年) ●やしろ国際学習塾ができた(1991年) ●社中央図書館ができた(1993年) ●滝野町立図書館ができた(1996年)

20年ほど前から今
<ul style="list-style-type: none"> ●東条学園が開校した(2021年) ●社学園が開校した(2025年) ●滝野学園が開校予定(2028年)



▲昭和のはじめごろの福田小学校
(出典:「加東市立福田小学校 閉校記念誌」)



▲社町立福田小学校新校舎完成式典(1980年)
(出典:「加東市立福田小学校 閉校記念誌」)



▲コスミックホール

2016年から、NPO法人「新しい風かとう」がコスミックホールの管理・運営を行っています。



▲社学園(2025年)

めあて

市の主な公共しせつは、いつごろできたのでしょうか。

●公共しせつのうつりかわり

けんたさんたちは、わたしたちの学校がいつごろできたのか調べてみました。



「昭和のはじめごろの小学校は1階だてで木造だね。」



「昔の小学生はどのような学校生活を送っていたのかな。」

けんたさんたちは、市の主な公共しせつが、いつごろできたのか調べました。

税金

市や国などが集め、公共しせつをつくったり、みんなに役立つ活動を行ったりするために使われるお金のことです。



「公共しせつをつくるにはお金がかかるね。お金はどこから出ているのかな。」



「公共しせつは、だれがどのように管理しているのかな。」

戦争中に福田国民学校に通っていた人の話



勉強どころではありませんでした。学校の運動場を畑にしてイモをつくっていました。友だちと下校していた時にアメリカ軍の戦闘機が急降下してしゃげきしてきたので、橋の下ににげたこともありました。





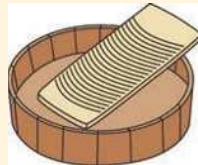


みんなで守る公共しせつ

各地区の公民館や集会所などは、地域の人たちが協力してそうじなどを行い、管理しています。各地区のゴミステーションや神社なども地域の人たちが協力して管理しています。

まなびのポイント

主な公共しせつができた時期について考えてみよう。

公共しせつは、どうやってできるのか調べてみよう。

	100年前	70年前	50年前	40年前	20年前～今(令和)
料理	かまど 火を自分でおこして、まきをくべて使う。 	ガスコンロ 手前にあるコックをひらき、マッチで火をつける。 		ガステーブル マッチを使わずに火をつけることができべんり。 	<small>アイエイチ</small> IHクッキングヒーター ボタンをおし、電気であたたかくなる。 
せんたく		せんたく板 みぞの上でこすって、よごれを落とす。 	せんたくき 電気式。せんたくが終わると、よこのローラーでしぼってほす。 		かんそうきつきせんたくき スイッチをおすだけで、せんたくからかんそうまでできる。 
市のできごと	<small>かとうぐんこうかいどう</small> ●加東郡公会堂(のちの明治館)ができた(1912年) <small>ばんしゅうてつどう</small> <small>かいつう</small> ●播州鉄道が開通した(1913年)	<small>やしらちよう</small> <small>たきのちよう</small> <small>とうじようちよう</small> ●社町、滝野町、東条町ができた(1958年)	<small>きゆうしよく</small> ●給食センターが <small>ちゅうごくじどうしゃどう</small> ●中国自動車道が開通した(1974年)	●加古川流域滝野歴史民俗資料館ができた(1980年)	●加東市ができた(2006年) ●加東バスターミナルができた(2022年)

めあて

くらしの中の道具は、どのようにかわってきたのでしょうか。

●道具とくらしのうつりかわり

けんたさんたちは、市のれきしやくらしをしょうかいしている加古川流域滝野歴史民俗資料館に行ってみました。



「知らない道具がたくさんあるよ。どのように使われていたのかな。」

けんたさんたちは、くらしに使う道具がどのようにかわってきたのかを調べ、古いじゆんにならべて年表をつくりました。

見方・考え方

せんたくきのほかに、どのような道具がかわってきたのかな。

加古川流域滝野歴史民俗資料館の人の話



資料館には、昔むかしの生活の道具が多くあります。たとえば、昔のせんたくは、せんたく板いたを使い、手あらいでしました。せんたく板は、みぞにせっけんのあわがたまおって、よごれがよく落ちるようおにくふうされているんですよ。

まなびのポイント

資料館に見学に行って、昔のくらしについて調べよう。

道具年表をつくり、わかったことや考えたことを話し合おう。